

東田小学校学校運営協議会令和4年（2022年）度

2023年（令和5年）1月21日（土） 会長挨拶 22-RO-7

新しい年2023年（令和5）に替わりましたが、相変わらずコロナ禍は継続しており第8波に入りました。丸3年世界中でコロナ禍の継続に対して人々は慣れてきて免疫性の意義についての論議もなされております。ともかくも新しい2023年が来ました。

子供にとって＜新しい年を迎えること＞の意義に付いて考えてみます。日本では暦の年末の12月について＜師走＞という名称があり、特別の意義を認め、＜教師はとにかく忙しい＞と言われます。

一年間の出来事を反省し整理する必要性を感じながらもクリスマス、大晦日、除夜の鐘、新年、元旦、初詣とせわしなく時間は経過します。

日本ではキリスト教のクリスマス行事とクリスマス商戦、クリスマス、プレゼントとクリスマスケーキ、そしてそれが終わると年末の正月を迎えるための諸行事と年末商戦へと大転換し、大掃除、門松と正月飾りの準備と実に鮮やかにこれらの光景は子供に視覚的にも認識されます。学校の終業式後は年末お寺の除夜の鐘、そして年が明けて正月の初詣は神社、お寺とまさにそれぞれの家庭の好み、個人の信条で行われます。

初詣の対象は地元の神社、明治神宮、稲荷、各種仏教寺院などですが、キリスト教教会での新年のミサに参加もありますが少数で一般的ではありません。（日本でのキリスト教信者数は全人口の1%と欧米、アジア諸国と比べても特別です）

年越しは欧州ではカウントダウンや花火で賑やかに行われます。また中国、華僑の多い地域：香港、シンガポール、台湾、では爆竹で賑やかに新年を迎えます。それでも旧暦の新年：春節（今年は1月22日から）のほうがより以上に盛大に行われます。

日本の年賀状の交換と同じように欧米でも中近東地域でもクリスマスカード、グリーティングカードの交換が行われます。日本の正月は三が日として慣習として休日扱いとなりますが、欧米では元旦のみが休日で日本のような全国的な正月気分と異なります。

子供の正月の遊びは凧あげ、独楽回し、羽子板、かるた、百人一首などがありますが、あまり見られなくなりました。最近では子供らはお年玉を親、祖父母からもらうことで正月を認識する。家では正月のお節料理、初詣でなど、そして正月が終わり学校での書初めで子供は正月を再認識する。お正月行事は日本では地域的にそれぞれ特色があるようですがそれが学校の教育の場でどのように多様に取り込み活用するか認識するよい機会ではないだろうか、また改めて外国のお正月も含めて比較する様な教育があってもいいのではないだろうか。新しい年に当たり所感を申し上げました。今年もよろしく願い申し上げます。

以上

小原理一郎